



## A : 8 月サロン報告

### 1. 「真夏の夜のジャズ」(解説:井上雅紀氏) 8月25日(土)

夏の夜長に JAZZ を楽しもうという企画。チャーリー・パーカーとビリー・ホリデイを前半に、後半は映画「真夏の夜のジャズ」に因んだアーティストが並んでいます。

井上氏は、JAZZ 鑑賞の「壺」(例えば、テーマをくずして吹くこと、アドリブがメインであることなど)を紹介し、またビ・バップ(チャーリー・パーカーたちが作り上げたジャズの 1 形式)の説明もされ、ジャズの初心者の方にもわかるように丁寧に話されました。今回は、まず JAZZ の巨人であるチャーリー・パーカーとビリー・ホリデイから 3 曲をピックアップし、名演に接してもらおうという試みで、特に村上春樹氏が絶賛するビリー・ホリデイの「君微笑むとき」When You're Smiling を聴くことができたのは収穫だったといえるでしょう。前回の JAZZ 特集でブルースを解説したりして JAZZ の本質に迫ろうとする井上氏の気迫が感じられる内容でした。

後半はアニタ・オデイやカウント・ベイシーなど、これぞ JAZZ といった名演・名唱が紹介され、まさしく「真夏の夜のジャズ」にぴったりの内容で(詳細はプログラムをご覧ください)でした。残念ながら時間切れで、エラ・フィッツジェラルドの「バードランドの子守歌」が最後になってしまい、ルイ・“サッチモ”・アームストロングとジャック・ティー・ガーデンの「ロッキング・チェア」を聞くことはできませんでしたが、SP レコードで聴くセロニアス・モンクやフランク・シナトラとメローム・オールスターズなどに皆さんご満悦の様子でした。

とはいえ、やはり蓄音機 E.M.G. Mark 9 は素晴らしく、今回もまたほれほれするサウンドを聴かせてくれました。

### 2. 尺八コンサート (出演:フランク玄海山氏+チェロ:高木麻里氏) 8月19日(日)

ドイツ人で尺八の都山流師範となられたフランク氏の尺八独奏を前半に、チェロの高木麻里氏とのデュエットを後半に設定したコンサートです。香津原のサロンでいわゆる“ライブ”という形で楽器演奏が行われたのは初めてです。

そこで、香津原の趣向をこらし、勝原氏が最初に虚無僧について語り、次に「大菩薩峠」(中里介山作)の一節(虚無僧が登場する場面)を朗読している中に、フランク氏が虚無僧姿で登場するという演出を考えました。この趣向は大成功で、フランク氏は登場すると大きな拍手で迎えられました。

フランク氏は、時に音を震えさせたり、またかすれさせたり、時に朗々と、時に切々と、深淵を感じさせる吹奏で大変興味深いものでした。後半チェロとのデュエットも伸びやかな演奏で、上品で趣味の良いコンサートとなりました。

猛暑の中を、わざわざ虚無僧の衣装に着替えた上に深編笠をかぶり、私たちのお願いをきいていただいたフランクさんには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

## B:9月の催し物 予告

### 1. 第2回「シネマを語ろう」 映画:野良犬 (解説:勝原良太氏)

好評だった第1回シネマサロン(A・ヒッチコック「めまい」)に続き、今回は黒澤明の「野良犬」です。解説は大の黒澤明ファンの勝原良太氏。蓄音機コンサートの前座として「野良犬」の音楽(「セコハン娘」等)について語ったのが話題になったこともあり、今回は本編に挑戦です。

#### 「野良犬」

監督：黒澤明 出演：三船敏郎、志村喬、淡路恵子

「なに、拳銃を盗まれた！」

若い刑事村上(三船)は、犯人や盗まれた拳銃を追い求めて、まだ戦後の匂い濃厚な東京を歩き回る。照り付ける太陽、たたきつける豪雨、滴り落ちる汗。過酷な状況の中、刑事村上がドヤ街や闇市を探し求めるドキュメントタッチの映画。村上と絡むのは、機略縦横の腕利き刑事(志村喬)、みじめさゆえに屈折した心理の踊り子(淡路恵子)、その踊り子に思いを寄せる犯人(木村功)―そして追い詰められた犯人は…

映像と共に溢れるほどに挿入された風俗音楽(歌謡曲とポピュラー)が、黒澤明の絶妙の演出とともに観客を昭和20年代の日本社会に連れ戻す。

●日時:9月15日(土) 4時開場 5時開演(語り手:勝原良太氏) 会費:1,500円(予約優先)

### 2. 蓄音機コンサート「映画音楽」特集 (解説:井上雅紀氏)

9月は映画ファンにはうれしい企画が揃っています。今月の特集は「映画音楽」です。

コメンテーターの井上雅紀氏は、ジャズ・マニアだけでなく大の映画ファン。特に洋画には小学生のころから親しんでいたといいます。その井上氏が選んだ映画音楽です。

\* 井上雅紀氏の言葉

戦後すぐ外国から入ってきた洋画には、誰しもカルチャーショックを受けたはず。アメリカ映画を見ると、その豊かで文化的な生活そのものがあこがれの対象になったものでした。それだけではなく、その音楽にも大きな魅力を感じました。邦画で使われている音楽とまったく異なる旋律と響きに新鮮な魅力を感じ、数少ない映画音楽のラジオ放送にかじりついて聴いた方もあるはず。

今回は、そんな時代の洋画の映画音楽を集めてみました。当時はまだサウンドトラックという言葉もなく、サウンドトラック盤でなくてもその音楽に酔いしれたものでした。(例えば「第3の男」は、オリジナルのアントン・カラス演奏のものよりガイ・ロンバード楽団のほうに慣れ親しんだのでした) また、日本人によるカバーも数多く発売され、こちらもそれなりに話題になりました。

現在、まだ選曲中です。

「エデンの東」「紅の翼」「OK 牧場の決斗」などを予定していますが、絞るのは結構骨が折れる作業です。皆さん、お聴きになりたい映画音楽があったら、ためらうことなくリクエストのお電話をお寄せください。

●日時:9月30日(日) 4時開場 5時開演 会費:1,500円(予約優先)

### 訂正 特別企画「故・寺田太作氏を偲ぶ」

本文中に「寺井多作」と記載されていました。正しくは「寺田太作」です。謹んでお詫びいたします。

## 真夏の夜のジャズ "Jazz On A Summer's Day"

A: チャーリー・パーカー & ビリー・ホリデイ Charlie Parker and Billie Holiday



1. サマータイム  
Summertime  
チャーリー・パーカー w/ストリングス  
Charlie Parker with strings (recorded in 1955)
2. パリの4月  
April in Paris  
チャーリー・パーカー w/ストリングス  
Charlie Parker with strings (recorded in 1955)
3. ソルト・ピーナッツ  
Salt Peanuts  
チャーリー・パーカー & ディジー・ガレスピー5重奏団  
Charlie Parker & Dizzy Gillespie Quintet (recorded in 1955)
4. 言い出しかねて  
I Can't Get Started  
(歌) ビリー・ホリデイ  
Billie Holiday and her orchestra (recorded in 1938)
5. 奇妙な果実  
Strange Fruit  
(歌) ビリー・ホリデイ  
Billie Holiday and her orchestra (recorded in 1938)
6. 君微笑えめば  
When You're Smiling (The Whole World Smiles With You)  
(歌) ビリー・ホリデイ  
テディ・ウィルソン楽団  
Teddy Wilson and his orchestra featuring Billie Holiday (recorded in 1939)

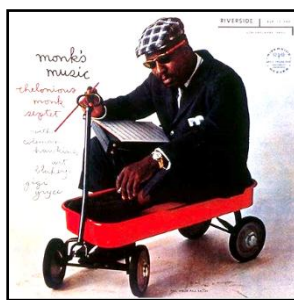
## B: 真夏の夜のジャズ

## JAZZ ON A SUMMER'S DAY

7. 恋とは何でしょう (歌) アニタ・オデイ  
What Is This Thing Called Love Anita O'Day (recorded in 1947)
8. トリクル・ティンクル セロニアス・モンク・トリオ  
Trinkle Tinkle Thelonious Monk trio (recorded in 1953)
9. ラヴ・ミー・オア・リーヴ・ミー (歌) サラ・ヴォーン  
Love Me Or Leave Me Sarah Vaughan (recorded in 1948)



O'Day



Monk



Vaughan

10. ジャンピング・アト・ザ・ウッドサイド カウント・ベイシー楽団  
Jumping At The Woodside Count Basie Orchestra (recorded in 1938)
11. スイート・ロレイン メトロノーム・オールスターズとフランク・シナトラ(歌)  
Sweet Lorraine Metronome All Stars w/ Frank Sinatra (recorded in 1947)



Basie



Young



Sinatra

12. バードランドの子守歌 (歌) エラ・フィッツジェラルド  
Lullaby of Birdland Ella Fitzgerald (recorded in 1954)
13. ロッキン・チェア ルイ・アームストロング・オールスターズ (歌: ルイ&ジャック・ティーガーデン)  
Rocking Chair Lois Armstrong and his all stars  
:Vocal refrain by Lois Armstrong and Jack Teagarden (recorded in 1947)



Fitzgerald



Armstrong